



難病の中村節子さんに 肝臓移植を

“節子さんを救おう”と子どもから大人までが、こころを込めて折る千羽鶴。「せつこさんを救う会」オリジナルブルゾンと手製の募金箱をもって、募金活動中です

募金目標金額
6,000万円

みなさまのご協力を
よろしくお願い申し上げます

愛知県知立市在住の中村節子さん(53歳)は、地元の医療機関にソーシャルワーカーとして、地元医療、患者さんの生活支援のため働いてきましたが、平成10年(1998年)に難病である原発性硬化性胆管炎と判明しました。

以来通院、入院を繰り返しながらも、徐々に症状が思わしくなくなり、肝臓移植以外助かる道はないと診断されました。速やかに移植すべき状況と主治医から伝えられ、国内での生体肝移植も考えましたが、身内に適合するドナーがおらず、また国内でのドナー提供を待っている時間の猶予もなかったことから、渡航・肝臓移植手術・滞在治療など必要な費用を本人・家族で準備して海外に渡航し、平成15年(2003)年11月に肝臓移植手術を行いました。

その後、順調に回復し仕事にも復帰し平穏な生活を送ってきましたが、今回再び、前回と同じ病状により徐々に体調が思わしくなくなり、速やかに肝臓移植する以外助かる道がないと診断されました。

主治医からは一刻も早く渡航し移植するようと言われておりますが、再度の肝臓移植と今後の入院・滞在の延長費用として総費用約6,000万円が必要となりました。この金額は、本人や家族だけでは負担ができない金額であり、また一刻も早く手術をしなければならないことから、私たちはご家族と相談し、2018年9月22日に「せつこさんを救う会」を設立し、募金活動を行うこととしました。

せつこさんを救う会 <http://setsukosave.com/>

募金のお振込先	金融機関名	口座番号	口座名
	ちゅうおうのうぎょうきょうどうくみあい あいち中央農業協同組合 本店	ふつう 普通 0206585	すくうかい せつこさんを救う会
	へっかいしんようきんこ 碧海信用金庫 本店営業部	ふつう 普通 6115894	すくつかい せつこさんを救う会
	みつびし ぎんこう 三菱UFJ銀行 安城支店	ふつう 普通 0456232	すくうかい せつこさんを救う会

「せつこさんを救う会」代表 太田絹子 事務局 愛知県安城市古井町小仏 15-15 電話 090-1757-0922

同会はボランティアで活動し、事務局に常駐スタッフがおらず、電話対応の難しいときは、留守番電話となること何卒、ご了承ください。

ホームページに「よくあるご質問(Q&A)」を設けております。ご参照いただくと幸いです。

Q 膨大な募金目標額ですが、なぜですか？

A 渡航移植をする場合、日本の医療保険制度は適用されず、移植手術費、渡航費、滞在治療費など莫大な費用が必要になります。

医療費(デポジット Deposit)とは移植実施病院に先払いする手術費・治療費などを意味します。手術を行い余剰金があれば返金されますが、不足金が出れば追加請求されます。

上記の費用以外にも、渡航費、現地滞在費(手術前の待機期間、術後の経過観察などに係る経費)を見込んでおります。これらの費用は、為替変動の影響を受けます。

現在のせつこさんの病状のリスクも考え、できるだけ早い渡航を医師から促されています。そのため、募金目標額に達しなくても、緊急を要する場合は、借入をして前払い医療費を済ませ、手術後、帰国後においても、募金目標額に達するまで募金活動を続けさせていただきます。

収支報告は当 HP にて随時更新し、ご寄附いただいた方々に透明性のある会計報告を努めてまいります。

何とぞご理解いただけますよう、心よりよろしくお願い申し上げます。

募金目標額6,000万円の内訳一覧

区 分	金 額
医療費(Deposit)	4,500万円
渡航および現地滞在費	400万円
せつこさんを救う会運営経費	100万円
予備費(追加の手術費用等)	1,000万円
合 計	6,000万円

※医療費用(Deposit)

手術、治療を行う病院より届いた正式なレター(受入通知書)によると、支払いが必要な前払い医療費(Deposit)は、39 万ドル(2018 年 10 月 18 日時点の大手銀行公表レートで計算 約 4500 万円)と記載されています。また、渡航後の治療の動向により増額になる可能性があります。

Q 募金が目標額を上回ったときはどうしますか？

A 同会会則の第 5、12、13 条に則り、速やかに募金活動を終了し、最終収支報告を当 HP にて更新し、ご寄附いただいた方々に透明性のある会計報告を努めます。

余剰金が発生した場合には、他の渡航移植を必要とする患者支援団体・支援組織への寄付をしますが、せつこさんの状態が安定しない場合は、医師と相談の上、期間を定めてその余剰金を凍結することご了承ください。

Q 原発性硬化性胆管炎ってどんな病気ですか？

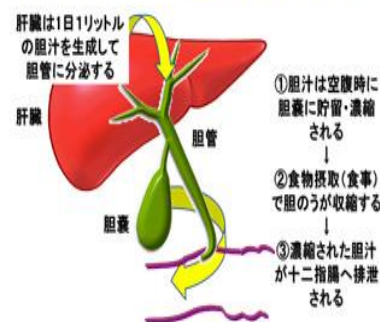
A 食物の消化や吸収に関わる胆汁は肝臓で1日あたり約1リットル生成されて胆管という管に排泄されます。胆汁は肝臓内の細い胆管を経て、空腹時に胆嚢で濃縮されたのち、食事(食物摂取)による胆嚢収縮によって太い胆管を経て十二指腸内に排泄されます(下図)。

その胆管が障害されると胆汁の流れが悪くなり、黄疸が起こることがあります。原発性硬化性胆管炎はその胆管が障害されて胆管が狭くなり、胆汁の流れが滞り悪くなるとともに肝臓の働きが悪くなる病気です。

この病気には治療法としては胆汁排泄を促す薬が有効ですが、病態に応じてその他の内服治療や内視鏡による胆管拡張治療が行われます。ただし、それらの治療は病気の進行を抑えているかは不明です。進行して肝不全に陥ると肝移植しか救命法がなく、わが国ではほとんどの場合、生体部分肝移植が行われています。

この病気が進むと黄疸や掻痒(かゆみ)に加えて、発熱や腹痛を伴う胆管炎を合併したり、肝硬変や肝臓内の胆管癌を合併することもあります。肝移植が有効とされていて移植後 5 年生存率 75%ですが、再発も少なくありません。(難病医学研究財団/難病情報センターHP から引用)

胆管の役割～胆汁の生成と輸送のしくみ～



～本人、家族からのお願い～

2018 年夏以降、急速に体調が悪化し、医師から速やかに肝臓移植を勧められています。リスクを回避するには、早急なる海外移植が唯一残された治療となりますが、莫大な費用を身内だけでは負担できず困惑していたところ、有志による「せつこさんを救う会」が設立されました。

当初は恐縮するばかりでしたが、無償で活動してくださる救う会の皆さん、また、まったく縁のない方々からのご寄付、応援メッセージをいただき、私ども本人、家族が元気に生きることが、一番の恩返しになると決心いたしました。皆さまご協力いただきますよう、心よりお願い申し上げます。

本会会員の臓器移植義援金協力のお願い

愛知県医療ソーシャルワーカー協会 会長 小林 哲朗

10/24、愛知県庁で安城更生病院の MSW 中村節子さんが記者会見を行いました。

自身の原発性硬化性肝炎に対する肝臓移植術を海外で受けることになり、その費用の募金をお願いする趣旨でした。

すでに同院 MSW 等による支援グループの先行活動により、前払い分の費用は目処がつき、早々に渡航治療に向っていますが、まだまだ協力を求めています。

本件は、あくまでも個人的な事案ではありますが、彼女が 26 年間医療ソーシャルワークの発展に尽力いただいている会員であること、多くの会員が協力している事案であることを鑑み、本会としても呼びかけに協力することを理事会で決定しました。

添付の資料をお目通しいただき、仲間が迎えている大きな局面に、ぜひとも支援をお願いします。

臓器移植、海外委嘱に関しては、みなさんがいろいろなご意見をお持ちだと思います。

わたしたち『せつこさんを救う会』のメンバーにも様々な思いはありますし、何よりも中村さんの中にも複雑な思いがあると思います。

それらの思いは思いとして、何よりも今は、ソーシャルワーカーとして働く仲間として、友人として、「中村さんを助けたい」という思いだけで動いています。

ぜひ、皆さんのお力をお貸しください。

JA 愛知厚生連安城更生病院 医療福祉相談課長

せつこさんを救う会

前田 美都里

CBC ニュース動画

<https://hicbc.com/news/detail.asp?id=00048637>

朝日新聞 2018 年 10 月 26 日

<https://www.asahi.com/articles/ASLBT449RLBTOIPE011.html>

せつこさんを救う会ホームページ

<http://setsukosave.com/free/119215/>